

wagamachi-guide book

市川三郷町 **三珠** 編

市川團十郎宗家発祥の地をめぐり、
「山の先生」・丹沢正作住居跡を訪ねる



勧進帳

**わがまち
再発見
ガイドブック**

ichikawa-misato

ぬりえにチャレンジ!



行程案

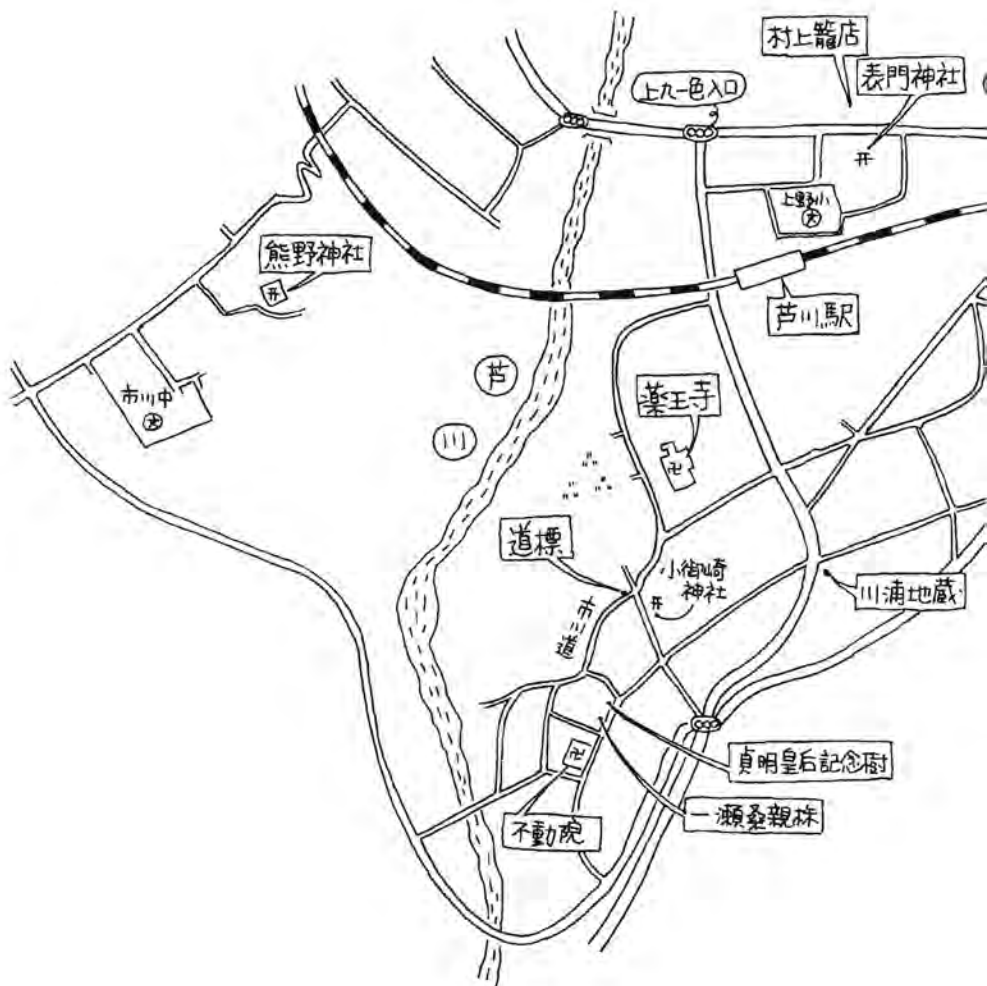
甲斐上野駅
 ↓
 中井清太夫石碑
 ↓
 蹴裂（けさき）神社
 ↓
 市川團十郎発祥を記す碑
 ↓
 三珠歌舞伎文化公園
 ↓
 丹沢正作・修道庵
 ↓
 上野地域の旧道
 ↓
 川満地藏
 ↓
 一瀬桑
 ↓
 市川道（いちかわみち）
 ↓
 蔵澤山不動院
 ↓
 薬王寺
 ↓
 芦川駅
 ↓
 表門（うわと）神社
 ↓
 村上籠店
 ↓
 熊野神社
 ↓
 狐塚
 ↓
 みたまの湯

市川三郷町 **三珠** 編

市川團十郎宗家発祥の地を
めぐり、「山の先生」・丹沢正作
住居跡を訪ねる

わがまち 再発見 ガイドブック

ichikawa-misato



甲斐上野駅の駅舎には、 「三つ柵」が デザインされている。

身延線・甲斐上野駅は無人駅で、改札も切符売り場ありません。電車内で整理券を取り、降りるとき、整理券と運賃を乗務員に支払うシステムになっています。

旧・三珠町は、歌舞伎荒事の創始者・市川團十郎発祥の地。この由縁を生かして「歌舞伎のふるさと」として町づくりを目指しています。甲斐上野駅もその一つ。市川團十郎家の定紋・大中小の「三つ柵」を駅舎のデザインにしています。



【三つ柵】

初代・市川團十郎は、曾祖父の堀越十郎が信玄の家臣で、しかも能の師範（歌舞伎は能の新派）だったことから、信玄柵の中に、京一升と京五合の柵を入れた形を家紋に決めた。替紋は杏葉牡丹（ぎょうはたん）である。

【富士身延鉄道】

身延線は、中央線と東海道線を結ぶ全長88・4キロメートルの路線。明治45（1912）年、富士川舟運に代わる陸路の輸送路として計画された。昭和3（1928）年、身延線全線が開通。この年、甲斐上野駅も開設された。

国鉄に編入されたときに、名称が「身延線」に変わった。

☆ちよつと寄り道

清太芋

(せいたいも)

で有名な代官・中井清太夫

(なかいせいたゆう)

は、笛吹川の氾濫を鎮めた。

昔、大塚河原では大雨が降るたびに笛吹川が氾濫し、大塚の田圃(たんぼ)が水没していました。このため、甲府代官の中井清太夫は笛吹川に流れ込む押出川(おしだしがわ)の底に流水溝を作るように指導しました。大木をくりぬいてつくった樋を地下に埋めて水を逃がしたのです。これによって笛吹川が逆流することはなくなり、氾濫を抑えることが可能になりました。

村人は、この事業を後世に伝えるために碑を建て、清太夫を生き神として祀りました。碑と石祠は、大塚にある県営の排水機場内にあります。



〔中井清太夫〕

中井清太夫は、安永6(1777)年から天明7(1787)年まで甲府代官として赴任した。清太夫は、飢饉対策にジャガイモ栽培を計画。幕府の許可を得て、種子を九州から取り寄せた。甲州に導入されたジャガイモは、清太夫の名を取って「せいだ芋」と呼ばれるようになった。



蹴裂(けさき)神社一帯には、
戦国時代、一条氏の館

(別名・上野城)

があつた。



甲斐上野駅から上野踏切を渡ると野面（のづら）積みめの石垣が見えます。歌舞伎文化公園の看板のところから坂を登ると、蹴裂神社があります。ここからは、甲府盆地の西部が眺望できます。

かつて、この付近は武田信虎の八男（信玄の異母弟にあたる）・一条信龍の城地でした。信龍は、騎馬百騎（二百騎とも言われる）を預かる侍大将として活躍したと言われています。

ちなみに、根元に石が食い込んでいる木が本殿裏にあります。自然の驚異を目にすることが出来ますよ。



【蹴裂神社】

太古、甲府盆地が一面大きな湖水だったという伝承がある。それによれば大男が両方の岩山を蹴り裂き、水を富士川に流して、

甲斐の国土が生まれたと言う。これが「甲斐開闢（かいびやく）伝説」である。大男は、後に蹴裂明神として崇められた。

上野の蹴裂神社は、この蹴裂明神を祀り、この伝説を語り継いでいる。

旧・三珠町は、市川團十郎
宗家発祥の地である。



勧進帳

04

一条信龍に仕えていた能の師範・堀越十郎は、初代・市川團十郎の曾祖父です。武田と相模北条との戦いで武功を立てた十郎は、三珠町上野の「ほっこし(堀越)」を拝領しました。武田家滅亡後、十郎は心の支えにしていた成田不動尊に救いを求めます。このとき、堀越家の系図や書物を孫の嫁ぎ先である一宮村(現・笛吹市)の石原家に託しました。そして、下総国埴生郡幡谷村(現・千葉県成田市)へ移り、農民となったのです。

堀越十郎の孫にあたる十蔵は、農業を嫌



初代・市川團十郎

い、江戸に出ました。万治三(一六六〇)年、初代・市川團十郎となる十蔵の長男・海老蔵が生まれました。海老蔵は、十二歳で歌舞伎役者となり、やがて市川段十郎と名乗ったのです。のちに名前の「段」を「團」に変えました。

【市川團十郎宗家】

初代・海老蔵から始まる歴代の「市川團十郎」は、三珠町上野の「ほっこし」が出自。現在の市川家の姓も堀越(ほりこし)である。

市川家の役者は江戸・明治から平成の今日まで何度も甲州を訪れ、歌舞伎を演じている。

二代目・團十郎が「海老蔵よりはじまりし早し枇杷(びわ)の鈴」としたためた軸が残っていて、祖先が甲州ということを代々言い伝えていたらしい。

市川家代々の宿願だった「市川團十郎
発祥の地碑」は、十二代目・團十郎に
よってやつと建立された。

昭和六（一九三二）年、一宮の石原家から堀越家の系図が発見され、「旧・三珠町上野が市川家発祥の地である」と判明しました。そのとき、市川三升が蹴裂神社を参拝し、「初代・市川團十郎先祖館跡」と書いた木碑を建てたのです。のちに十一代目・團十郎となる九代目・海老蔵が三珠町を訪れ、発祥の地に碑を建立したいと願い出しました。しかし、十一代目は襲名後、三年で他界。建立はなりませんでした。

昭和五十九（一九八四）年、十二代目・團



十二代目・市川團十郎



十郎（当時は、十代目・海老蔵）によって念願だった記念碑が歌舞伎公園内に建立されました。十二代目は、パリ・オペラ座でも公演をし、歌舞伎を世界的に広めています。

春、歌舞伎文化公園付近では、 市川家・替紋の「牡丹」が咲き誇る。

歌舞伎文化公園内には、「文化資料館」、「民俗資料館」、「ふるさと会館」があります。「文化資料館」には、市川家代々の秘蔵品が展示されています。文化資料館内の多目的ホールは、歌舞伎公演や演劇、演奏会が行われる施設です。

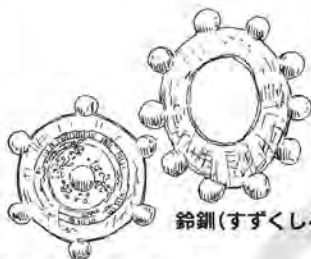
園内とその周辺には、約八千本の牡丹が植えられています。四月には「ぼたんの花祭り」が行われ、地元特産のトウモロコシや茶、タケノコなどが販売されます。牡丹の植栽は、市川家の替紋が牡丹であることにちなんだものです。



替紋・杏葉牡丹



旧・三珠町のシンボルである
「ふるさと会館」は、甲府盆地を
一望する景勝地にある。



鈴鋤(すずくしろ)

六鈴鋤(ろくれいきょう)

歌舞伎公園内の「ふるさと会館」。ひととき
わ目を引く天守閣を備えたお城造りです。
曾根丘陵の最南端に位置しているため最
上階からは甲府盆地が一望できます。

一階は歌舞伎公演ができる多目的ホー
ル。二階は「考古資料室」になっています。

旧・三珠町には、数多くの古代遺跡があり、
出土した土器や副葬品などのほか、古文書
などを展示しています。また、旧・三珠町出
身の一瀬益吉(桑の新種発見者)や丹沢正
作(地域の教育功労者)の生涯と功績も紹
介されています。

イギリス人牧師が建設のきっかけをつくった芦川第一発電所は、県内初の水力発電所である。



歌舞伎文化公園の「いこいの森」には、「水力発電発祥の郷」の碑が建っています。

明治二十五（一八九二）年、精進湖で遊んでいたイギリス人牧師が芦川を下ったとき、「この川は、発電に最適だ」と地元の有力者に薦めました。これがきっかけとなり、芦川に水力発電所が建設されることになったそうです。

明治三十三（一九〇〇）年、当時の甲府電力（現・東京電力）が芦川の水を利用して、芦川第一発電所を建設しました。県内初の水力発電所となり、近隣地域や甲府へ電力が供給され、電灯が灯（とも）るようになりました。



08

「山の先生」・丹沢正作
（たんざわしやうさく）は、
 宮沢賢治のような
 地域の思想的な指導者だった。

09





三珠農村広場付近に、「山の家」と呼ばれる茅葺き屋根の小さな家(復元)があります。丹沢正作が修道庵として住んでいた家です。

正作はキリスト者であり、トルストイアンです。徳富蘆花(とくとみろか)の影響を受けて平民主義を貫いた人です。上野村の書記を務めるかたわら平民学校をつくって農村の子どもたちの教育にあたりました。「土を愛し土を離れるな」をモットーに地域社会の発展に尽くしたのです。いつしか正作は、「山の先生」と呼ばれ、村人たちの敬愛を集めました。

「山の家」には、正作に関する資料が展示されています。庭には、犬の「白」の墓があります。「白」は正作の飼い犬ではなく、東京の蘆花の犬でした。しかし、暴れ方がひどく、苦情が出たため、正作が山の家で預かることになったのです。

【丹沢正作】

明治9(1876)年、西八代郡上野村(現・市川三郷町上野)で誕生。明治31(1898)年、市川教会においてキリスト教の洗礼を受ける。東京専門学校(現・早稲田大学)を卒業後、帰郷。上野村で地域の発展に尽くした。大正15(1926)年、胃がんのため逝去。

上野地域の旧道には、 蔵造りの家が立ち並ぶ。

多宝院の墓地脇を下ると、上野コミュニティセンターがあります。ここには、金川曾根広域農道が建設されたときに移された馬頭観音や供養塔などの石造物があります。

上野地域の旧道には、往時の面影を残した蔵造りの家が建ち並んでいます。家紋の入った白壁、瓦屋根の続く風景は、郷愁を誘います。旧道を三珠中学校方面に進むと、道の傍らに双体道祖神が祀られています。これも、かつて金川曾根広域農道沿いにあったものだそうです。



10

川浦地蔵は、顔も体も
いたるところがくぼんでいる。

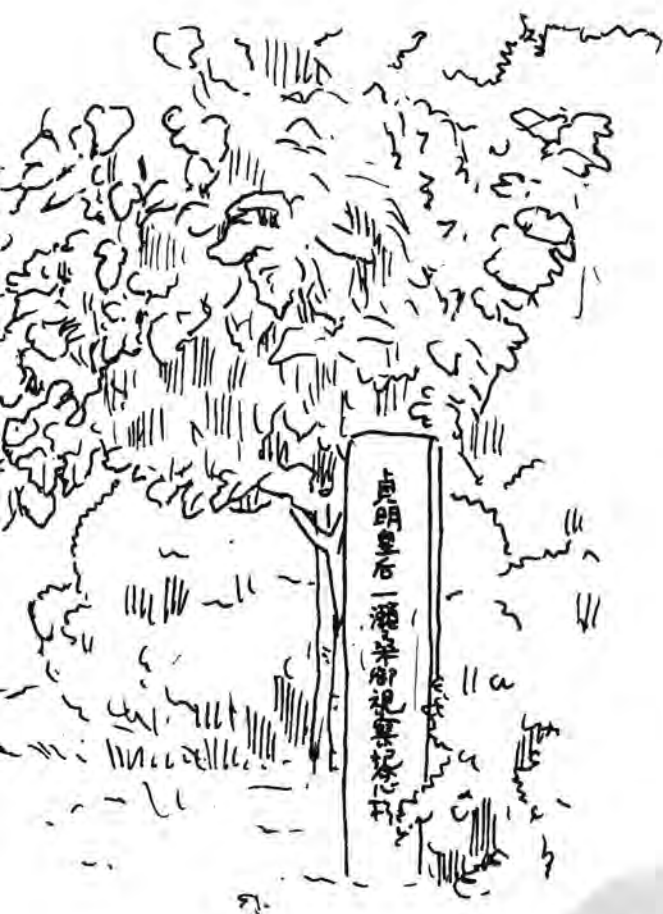
「川浦地蔵バス停留所」には、庚申塔や観音像とともに頭からすっぽり赤い布を被った三基の地蔵が祀られています。

お地蔵さまたちは、顔も体もくぼんでいます。中には姿さえわからないほど磨り減っているものがあります。まるで薬研（やげん）です。これは、祈願者が自分の患部と同じ部分を石で叩くからです。叩く音が「かんかん」鳴るので「かんかん地蔵」とも呼ばれているそうです。



薬研（やげん）真ん中に溝のある薬草をすりつぶす道具。

全国に普及した桑の最高品種
「一瀬桑」は、一瀬益吉と妻・きくのが
発見し、増産したものである。



【一瀬益吉】

慶応元(1865)年、旧・市川大門町(現・市川三郷町)で生まれる。

旧・三珠町上野村の一瀬長徳に養子に入り、養女きくのと結婚。川浦集落の養蚕組合長になり、桑園改革を行う。「一瀬桑」を発見、全国に普及させた。

益吉は、県政界にも進出、上野銀行を創設して活躍する。大正10(1921)年、脳溢血のため死去。

12

明治三十(一八九七)年頃、一瀬益吉が「鼠返し」という品種の桑苗を千本植えました。その中から桑葉が厚くて大きい二株を妻・きくのが発見したのです。益吉は、その二株から取木法で苗木を作り、増産を図りました。大正五(一九一六)年、第一回桑園品評会で「世にもまれな良品種」と推奨され、知事から特別賞が与えられました。この桑は、発見者の姓や一瀬山光勝寺の山号から「一瀬桑」と名付けられたと言われています。

一瀬桑は、葉の収穫量が多く、寒冷地でも育つことから、奨励品種として全国の養蚕農家に普及しました。親株は、県の天然記念物に指定され、保存されています。昭和二十三(一九四八)年、貞明皇后がこの一瀬桑を御視察された際の記念樹もあります。



「市川道（いちかわみち）」は、九一色郷（くいしきょう）の
人々にとつて、重要な「生活道」だった。



九一色郷（旧・上九一色村の一部と旧・三

七九六）年建立の道標（みちしるべ）があり

珠町下九一色）の人たちは、市川道を使つて薪や炭を市川へ運び、帰りは日用品を買い入れていました。市川道を、川浦地蔵から八代・青川・三珠線を越えて進むと、右に曲がったところに小御崎神社があります。そこを下った突きあたりには、寛政八（一

ます。「大慈大悲観世音菩薩 右 蔵沢ふどうそん 左 札所一のせさん 駿州往還」と刻まれています。不思議なのは、蔵澤山不動院は左に曲がったところにあり、現在の位置関係とは異なることです。道標が移されたのかもしれない。

蔵澤山不動院は、甲斐西八代・七福神めぐりの七ヶ寺の一つである。



甲斐西八代・七福神めぐりは、芦川の兩岸に散在する七ヶ寺をめぐるコースです。七福とは、仁王経に「七難即滅、七福即生」と説かれている言葉に由来します。ここから民間信仰で七福神（毘沙門天・弁財天・福祿寿・布袋尊・恵比寿大神・寿老人・大黒天）が生まれました。

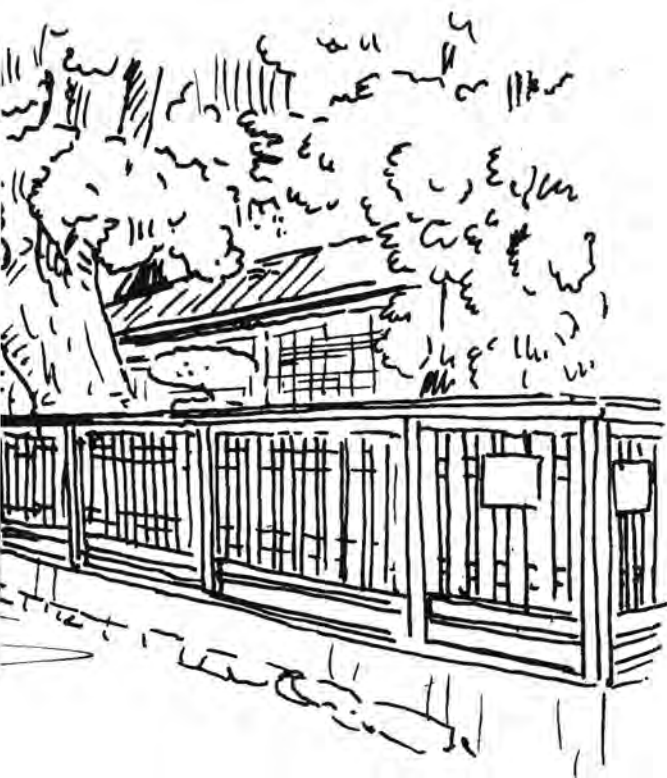
不動院には、健康成就の神・寿老人が祀られています。朱印帳は、三つ折タイプの朱印色紙（一冊五百円）。朱印料は一ヶ寺、三百円です。七ヶ寺の朱印を集めると記念品がもらえます。

〔甲斐西八代・七福神めぐりの七ヶ寺〕

福寿院（毘沙門天）、宝寿寺（弁財天）、宝寿院（福祿寿）、

花園院（布袋尊）、薬王寺（恵比寿大神）、不動院（寿老人）、光勝寺（大黒天）の七ヶ寺。

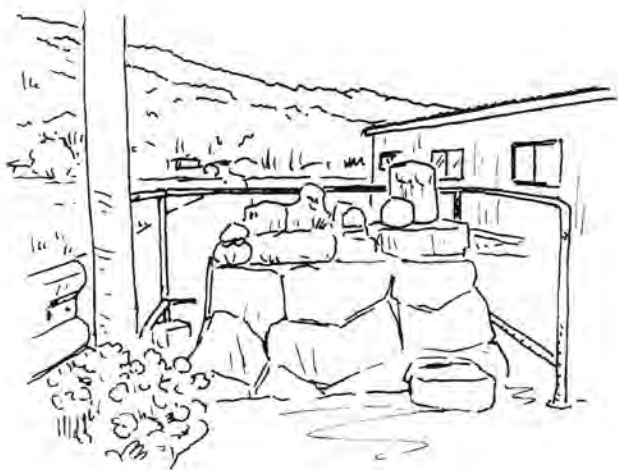
点在する懐^(なつ)かしい佇^(たたず)まいの家、
広がる田園、まさに映画に出てくる
ような風景が広がっている。



15

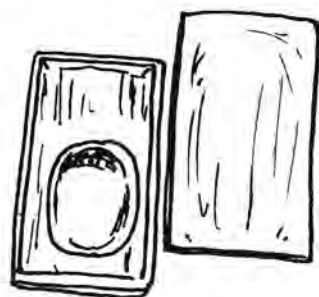
不動院から薬王寺方面に進むと山すそまで田園が広がっています。この眺望は一見に値します。

道路の一角には、六地藏の一部や丸石が集められた道祖神場があります。田んぼの反対側には、綺麗に石積みされた小路が見えます。「昭和」が舞台の映画撮影をするのには、最高のロケ地となりそうです。





16



硯

禁じられた恋に落ちた
 良純親王(よしすみしんのう)を待っていたのは
 十七年間の甲斐国配流生活だった。

後陽成天皇の第八子・良純親王は僧侶であるにもかかわらず、京都島原の遊女・三芳野と恋に落ちました。天皇は、良純親王をとがめ、寛永二十(一六四三)年から十七年間、甲斐国に配流しました。親王は、許しがでるまで湯村、下積翠寺の興因寺、旧・三珠町の薬王寺などを転々としました。良純親王は、明暦元(一六五五)年から五年間も薬王寺に住みました。芦川を京・鴨川に見立てて心を慰めたのかもしれませんが。薬王寺の客殿右奥には、良純親王御座所の一部が移築されています。また、良純親王の遺品・唐犬が彫刻された硯や絵馬も残っています。



【薬王寺】

薬王寺は、天平18(746)年、行基が開基。行基作と伝わる多聞天王(毘沙門天王)像を祀る。その後、天台宗に改宗。信玄、家康の庇護を受け、七堂が建ち並んでいたという。現在は、江戸期建立の客殿と庫裏がある。薬王寺は、甲斐西八代・七福神めぐりの一つ。商売繁盛の神・恵比寿大神が祀られている。

世界に二株しかない雄株の オハツキイチヨウが、薬王寺にある。

オハツキイチヨウは、学術的に珍しい植物です。実が葉の上に結実するイチヨウの変種で、全国で二十例ほど報告されています。山梨県には、八本のオハツキイチヨウがあります。ほとんど雌株（イチヨウは雌雄別木）ですが、身延町八木沢と薬王寺のイチヨウだけが雄株です。

葉の上に葯（やく）をつける雄株は、明治二十九（一八九六）年に身延町八木沢の山神社で、藤井健次郎博士によって初めて発見されました。それから八十年後に秋山樹好氏によって薬王寺で、県内二本目の雄株が確認されたのです。薬王寺のオハツキイチヨウは、通常の雄花に交じって葉の上に葯をつけます。葯をつけた葉は変形し、葉

に切れ目が入っているのです。葯が多いほど変形が著しく、葉も小さくなるそうです。



【葯】

雄蕊（おしべ）を構成する器官。ふつう雄蕊の先端にあって中で花粉がつくれ、成熟すると裂けて花粉を出す。イチヨウは雌雄異株のため雄木に葯ができる。

芦川駅のプラットフォームに立つと、
ゆったりと広がる里山を体感できる。



身延線芦川駅は、昭和四（一九二九）年の
駅開業当初から無人駅。ホームには小さな
待合所が設置されています。駅から市川本
町に向かう途中に芦川が流れています。こ
の川が駅の名前の由縁です。

駅付近や町の電信柱などに「イカのおす
し」と書かれた標識がたくさん目に付きま
す。これは、子どもを不審者から守るため
に市川三郷町立上野小学校のPTAが考
えた標識です。どういう意味を持つ言葉な
のか見てくださいね。



身延線は、甲府方面が下りで富士方面が上り！
その理由は、起点が富士駅だから。富士から順に甲府まで開通していった。

★ちよつと電車の時間待ちに

表門

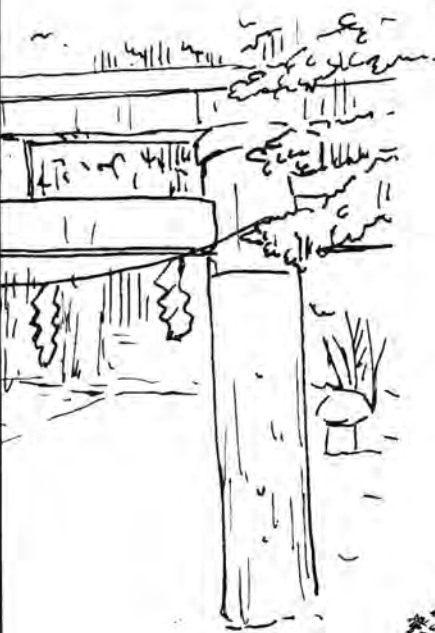
(つもと)

神社の本殿の造作には

下山大工の優れた彫刻技術が光る。



19



県の文化財に指定された石鳥居は、鎌倉時代に造られたものです。全体的に直線的な造りで、重厚感があります。

本殿は、三間社流れ造り。現在、屋根は銅板葺きですが、かつては桧皮葺(ひわだぶき)でした。棟札(むなふだ)に「元禄八(一六九五)年の建立」、「大工棟梁は石川久左衛門家久」と記されています。これで彫刻技術に優れた身延町の下山大工の手が入っていたということが判明したのです。本殿の脇障子などには、精巧な彫りの鶴や鳳凰などがあります。

本殿に向かって左側には、コツブガヤの木があります。特徴は、種子が極めて小さいこと。カヤの実(実)は黒い実で、羽子板遊びの羽根玉に使われますが、コツブガヤの実(実)は羽根玉にするには小さすぎるそうです。



【表門神社】

表門神社は、知恵の神様の「お文殊さん」として知られ、「市川文殊」と呼ばれている。神主が白河天皇の病いを祈禱して治したこと、天皇が神社造営をしたとも言われている。元禄8(1695)年、徳川綱吉によって修復された。天照大神、倉稲魂命(ウライナタマノミコト)、瓊々杵尊(ニギハヤヒノミコト)が祀られている。

「表門神社修復計画」の財政源は「富くじ」だった。

表門神社は、徳川家康が本陣に定めたため御朱印が下され、その後は幕府の保護の下で社殿修復が行えるようになりました。しかし、しだいに幕府財政がひっ迫して修復金がもらえなくなると、別当内膳が「富くじ」の収益で修復することを思い立ちました。

文政十二（一八二九）年、「富くじ」の許可を受け、上野や市川、甲府で三年間に渡って興行しました。しかし、思うように収益が上がらず、部分的な修復しかできませんでした。神社には、当時の富くじの箱や板札などが保管されています。



20

峡南地方に春を告げる

「一之酉祭典

(いちのとりさいてん)

」では、

太々神楽が奉納される。

二月の「一之酉祭典」で太々神楽が奉納されます。約九百年の歴史を持つ神楽です。表門神社神楽保存会が、神話をモチーフにした「舞」を表門神社・神楽殿で披露します。近年、「大蛇退治」の演目が復活しました。大蛇の口から火花が飛び散る仕掛けになっています。

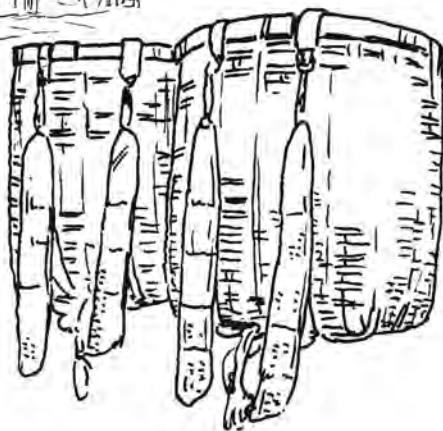
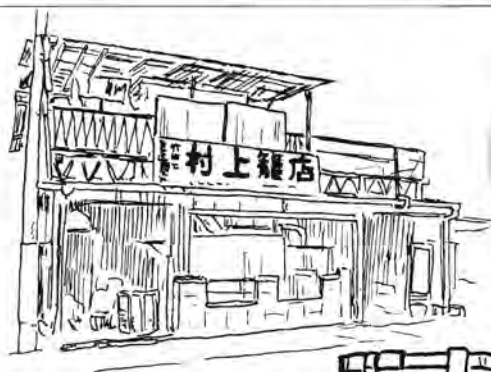
四月には、「神輿の川渡り(お御幸さん)」も行われます。神輿が表門神社から市川大門の御崎神社まで練り歩きます。神輿を担いだまま芦川を横断します。若者たちが水しぶきを上げながら威勢よく川を渡る様子は迫力満点です。



村上籠^(かご)店の店主・村上国昭さんは、
伝統工芸技能賞を受賞している。

村上籠店は、さまざまな竹籠を製作して販売しています。身延町竹林から竹を切り出し、農作物や生活関連品を入れる籠を製作しているのです。籠作りは、工程のすべてが手作業。竹を竹わりという道具を使って割り、さらに鉋(なた)で細く裂きます。そして、ひも状にした竹を編んで、様々な形の籠にしていきます。籠は、県内の農家や組合に販売していますが、長野や愛知からの注文も来るそうです。

村上籠店は、初代・村上茂作さんが始め、二代目の国昭さんが引き継ぎました。昔は、弟子が三、四人いたそうです。



22

☆ちよつと寄り道

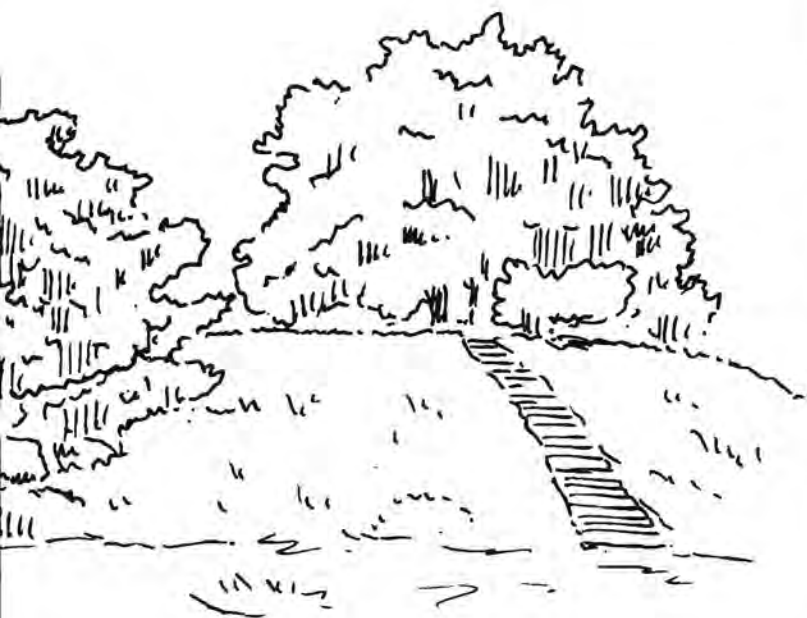
熊野神社の狛犬(こまいぬ)は、

狛犬の原始型と言われている。

大塚・熊野神社秘蔵の狛犬は、もとは、北原の那智社(なちしゃ)に安置されていた。高さ四十二センチ。腹部には、「応永十二(一四〇五)年」の銘があります。記年の古さでは全国でも屈指。大胆な造形は狛犬の原始型と見られています。足を前に出す東大寺式狛犬(鎌倉時代に生まれたと言われる)と異なり、太い足で踏ん張り、体の前に乗り出す姿はユニークです。ただ、かわいそうなことに狛犬の右足は切られています。「那智社の森の木を盗みに来たきこりを狛犬が追い払ったため、怒ったきこりが足を壊した」という伝承が残っていますが、詳しいことはわかっていません。



市川三郷町には、卑弥呼の時代の
鏡を出土した狐塚がある。



24

市川三郷町の文化財に指定されている古墳は、伊勢塚・大塚・狐塚・エモン塚。これら大塚地区の古墳で、原型が保たれているのは円墳の伊勢塚です。大塚古墳は前方後円墳で、前方部から刀剣や呪術に使われた六鈴鏡（ろくれいきよう）などが発掘されました。

狐塚からは、「赤烏（せきう）元年五月廿五日（赤烏は中国三国時代の呉の国の年号・西暦二三八年）」の記年がある四神四獣鏡が出土しました。呉鏡は日本に三面しかなく、そのなかでも最も古いものです。



赤烏元年銘対置式神獸鏡



25



みはらしの丘温泉「みたまの湯」からは、
宝石を敷きつめたような
盆地の夜景を見ることが出来る。



みたまの湯は、標高三七〇メートルの高台にあります。「みはらしの丘大展望露天風呂」からは、甲府盆地をはじめ、南アルプスや八ヶ岳が一望できます。また、「百万ドル」と言われるほどの美しい夜景を見ながらゆったり温泉にひたることもできます。

館内には、食事処や農産物直売所があります。直売所では、特産品の大塚ニンジン（細長い独特の品種）やとうもろこしなどが販売されています。



市川三郷町 **三珠** 編

市川團十郎宗家発祥の地をめぐり、
「山の先生」・丹沢正作住居跡を訪ねる

発行	市川三郷町役場 〒409-3601 山梨県西八代郡市川三郷町市川大門1790-3 TEL 055-272-1102 FAX 055-272-2525 URL http://www.town.ichikawamisato.yamanashi.jp
企画	株式会社サンニチ印刷
編集	特定非営利活動法人つなぐ(つなぐNPO) 「まちミュー友の会」
印刷	NPO法人つなぐ・ほんほん堂

発行：市川三郷町役場

〒409-3601

山梨県西八代郡市川三郷町市川大門1709-3

TEL 055-272-1102

FAX 055-272-2525

市川團十郎宗家発祥の地をめぐり、「山の先生」・丹沢正作住居跡を訪ねる

